

大谷地病院理念

信頼・真心

【安全と信頼】

私たちは常に医学的知識と技術の向上に努め
地域に信頼され、必要とされる安全な医療機関をめざします。

OHYACHI
HOSPITAL

【真心と誠意】

私たちは一人ひとりの皆さまとの出会いを大切に
真心と誠意をもって、皆さまの健康な心身作りに努めます。

大谷地病院基本方針

1. 私たちは地域に信頼され、必要とされる医療機関をめざします。
2. 私たちは患者様との出会いを大切に、患者様の心身を真心を持って癒します。
3. 私たちは専門職として、それぞれの分野で知識・技術を磨き、チーム医療の質の向上に努めます。
4. 私たちは患者様の自由・権利・人間性を尊重します。
5. 私たちは患者様が社会人として、地域の中で生活を送れるように支援します。

■ご案内■

- 自家用車、タクシーをご利用の方は、南郷通からお越しいただくと便利です。
- 地下鉄ご利用の方は、東西線大谷地駅で下車して5番出口より徒歩約10分です。
- 北広島、南幌、恵庭・中央長沼方面からは、JRバス（長沼線）で大谷地バスターミナルまでおいで下さい。
- 診療科目 精神科 心療内科 内科



当院は予約制となっております。
初診の方も事前にご予約のうえ来院下さい。
診療受付時間(平日) 9:00～11:30
13:00～16:30
(土曜) 9:00～11:30
※土曜日は午前からの受付で、日曜・祝日はお休みです。

〒004-0041
札幌市厚別区大谷地東5丁目7-10
TEL: (011) 891-3737(代)
FAX: (011) 891-3868
※ 診療予約専用TEL (0120) 489-892
<http://www.ohyachi-hp.or.jp/>

大谷地ふれあい通信



編集/大谷地病院広報委員会
発行/重仁会 大谷地病院

2016年9月 第47号



認知症サポートセンターのご紹介

今年度の4月1日から医療法人重仁会の新規事業として、認知症患者サポートセンターの活動を始めています。

活動を始めた経緯としては、国が進める認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の計画の中で、「認知症患者医療センター」という事業が国の施策としてあります。札幌市では事業としてまだ指定を始めていませんが、認知症を患った患者さまに多く関わる当院の社会的使命を果たすため、認知症患者への啓蒙活動という目的で同等の内容の事業を「認知症患者サポートセンター」という名称で、先行して行うことにしました。

センターの事業内容は大きく分けると4つあります。まず1つ目が認知症の鑑別診断です。これは昨年から行っている物忘れ外来となります。2つ目が急性期の入院治療対応です。これは当院第4病棟が認知症の治療病棟の指定をとっていますが、その病棟だけでなく身体合併症のある認知症の型の場合は各病棟で対応しています。3つ目は専門職への研修会の開催です。認知症専門医が外部の講師活動を行ったり、認知症看護認定看護師がBPSD対応講座など介護スタッフ向けの研修講師などを務めたりしています。4つ目は情報発信ですが、これは認知症に関わる啓蒙活動全般となります。認知症患者サポートセンターのホームページ上から幅広く認知症の相談ができるようになっており、内容は①受診相談、②介護相談、③講演依頼などができます。

また市民に対して認知症の理解を促すイベントの開催の企画や認知症予防の普及啓蒙事業についても話し合っています。これは認知症予防のモニター員を募集し、座談会の開催などにより住民ニーズを調査し、認知症予防事業のプログラム開発を行うことなどを予定しています。その他にもWEBや配布物にて広く認知症の情報発信を行っていきたく考えています。

組織についてはセンター長が専門医の田尾院長で、部門の所属長を集めて定期的に話し合いを進めています。将来的には専任の担当職員を配置して活動を行う予定です。

ホームページアドレス

<http://www.ohyachi-hp.or.jp/ninchisho-sc/index.html>



- 認知症サポートセンターのご紹介
- 先生の趣味講座：渡邊潤子先生
- 介護のいろは：「食事編」
- 社会資源紹介：「相談支援事業所」
- 絵日記漫画
- 病院理念および基本方針





先生の
趣味講座

「山の休日」

精神科：渡邊 潤子先生



私の休日の楽しみはトレッキングです。歩き始めてかれこれ20年近くになります。私は生まれも育ちも北海道ですが、大学を出る頃までは「自然に親しむ」ことへの興味はあまりなかったように思います。仕事のために6年ほど過ごした東京から北海道に戻ってきた時、身近な自然の素晴らしさに改めて気づかされ、札幌近郊の森や山を歩いてまわるようになりました。

頂上を目指して山に登るのも達成感があって楽しいですが、一番の目的は季節ごとに変わっていく植物たちを見る事です。手入れされたお庭の花の美しさにも惹かれますが、人の手の入らない森の中で他の植物たちと競争しつつ力強く咲いている野生の花を見つけたときの感動はまた全く違ったものがあります。毎年お気に入りの花に会いに行くのはもちろん、初めて出会う花を探し、写真に記録してコレクションを増やしていくのも楽しみの一つです。他の植物の陰に隠れてひっそりと咲いている花もありますので、時々立ち止まりながらゆっくり花を探して歩きます。気がつくとも、2、3時間はあっという間です。

ほんの1、2週間で主役の花はどんどん入れ替わって行きまますし、花が少ない季節にも野鳥や動物たちと出会う楽しみがありますから、どの季節に行っても何年経っても飽きることはありません。たくさん歩くことで日頃の体力維持にも役立っているような気がします。

普段はなかなか遠くの山に行くことができませんが、今年は少しお休みをいただいて尾瀬まで行ってきました。初めて山小屋に泊まり存分に歩くことができ幸せな時間を過ごしました。これからもまだ行ったことのない山や森を少しずつ歩いて行きたいと思っています。



介護のいろは

～食事編～



言語聴覚士の中村です。今回は食事の動作や飲み込みが困難な方の食事介助の注意点について簡単にですが書かせていただきます。

食事は、『食物を認識～口に運ぶ～開口～閉口～噛む～食物を舌の奥の方へ移動させる～飲み込む～食道から胃に食物が運ばれる』という行為がスムーズにいく事で行われています。一つでも困難になると食事をするのが難しくなります。

介助をする際の注意点は、『横に並んで下から口に入れる』『食べる人のペースに合わせる』『声がかすれた場合は咳払いをしてもらう』等があります。また、身体の半側に麻痺がある場合は、麻痺のない側から介助し、麻痺のない側の口から飲食物を入れてあげると、介助者・飲食物共に認識してもらいやすくなります。

姿勢の注意点は、出来るだけ顎を引いて飲み込んでもらう事です。上を向くと飲食物が気管～肺に入りやすくなります。

以上、簡単に書かせてもらいましたが、細かい点に関してはまた別の機会に。いつまでも楽しく、美味しく食べたいですね。



社会資源紹介「相談支援事業所」

障がいのある方や、その家族の生活や支援に関する相談に応じるとともに、関係機関との連携の下、障がいのある方の身近な地域において、安心して生活できる地域の支援体制をつくることを目的とします。

具体的には、日常生活上の支援を必要とする障がいのある方やそのご家族等に対し、窓口による相談や家庭訪問による相談等を行います。

札幌市からの委託等を受けて運営している事業所は、市内19か所、札幌市からの指定を受けて運営している事業所を含めると97か所の相談室があります。

利用対象者は身体・知的・精神の障がいをはじめ、重症心身障がい、発達障がい、高次脳機能障がいや、その関係者など、実際に当院からも相談を入れる件数は増えてきています。

高齢者に担当ケアマネージャーが付くように、障がいのある方にも担当ソーシャルワーカーが付くようなイメージですね。そのソーシャルワーカー達は専門性が高いプロ、地域の要となるのが相談支援事業所です。



日常生活のこと、福祉サービスの利用等に関する相談支援

障がいや病状の理解等に関する相談支援

保育や教育等に関する相談支援

家族関係、人間関係等に関する相談支援

社会参加や余暇活動等に関する相談支援

権利擁護に関する相談支援

その他、地域生活を送る上で必要な相談支援



絵日記まんが「ケイトとまーさん」

